

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人協同福祉会	代表者	理事長 村城 正	法人・事業所 の特徴	東大寺転害門近くの歴史深い地域で、最期まで自分らしく安心して暮らし続けられるよう「あすなら10の基本ケア」に沿って、支援を行っています。地域とのつながりを大切に、地域の人と共に考え、地域資源として利用して頂くための取り組みを行っています。
事業所名	あすならホーム今小路	管理者	松井正臣		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	0人	0人	10人	1人	0人	5人	0人	16人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	作業の効率化を目指す。情報の共有を行い、全員が同じ視点で本人の生活を支える。	情報共有を行っている。	職員が忙しすぎる。人手が足りないのでは？	在宅時の支援の幅を広げ、看取りまで支える力をつける。
B. 事業所のしつらえ・環境	地域の人、いつでも気楽に立ち寄れる雰囲気作りを目指す。	相談には来られるが、イベントはお休みし、交流は減少している。	具体的な提案が欲しい。	コロナ対策を徹底して行き、安心して来所していただく。
C. 事業所と地域のかかわり	開かれた事業所を目指し、地域の人に参加できるイベントや勉強会を開催していく。	コロナ禍で、地域の方と交わる機会は減少している。	早く地域の体操を再開してほしい。	勉強会やイベントを再開して、地域の人との繋がりを再構築する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	ご近所の方から、相談・意見を聞きながら、「長く自宅で過ごせる地域」を目指す。	ご近所とのつながりも、コロナ禍で控えがちになっている。	この地域は、まだ助け合いの精神が残っている。	「互近助」精神を広め、支え合う関係を築く橋渡しとなる。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	事業所の形態や方向性について周知した上で、会議での発言の機会を設ける。	地域密着型の理解は進んだ。	家族間の交流の時間が欲しい。	地域住民の参加者を増やし、地域資源としての役割を周知していく。
F. 事業所の防災・災害対策	夜間を想定した訓練も追加して対策をとる。地域に向けてAEDを含む勉強会を行う。	夜間を想定した訓練を行った。地域の勉強会はできなかった。	今年は(コロナで)防災訓練に参加しなかった。	地域住民と一緒に防災訓練、AEDの勉強会を行う。